

証券コード：3435



2024年3月期 第2四半期 決算説明会



2023年11月29日

- 1 会社概要
- 2 2024年3月期 第2四半期 実績
- 3 2024年3月期 通期 計画
- 4 中期経営計画（～2023年度）達成状況
- 5 次期中計に向けて

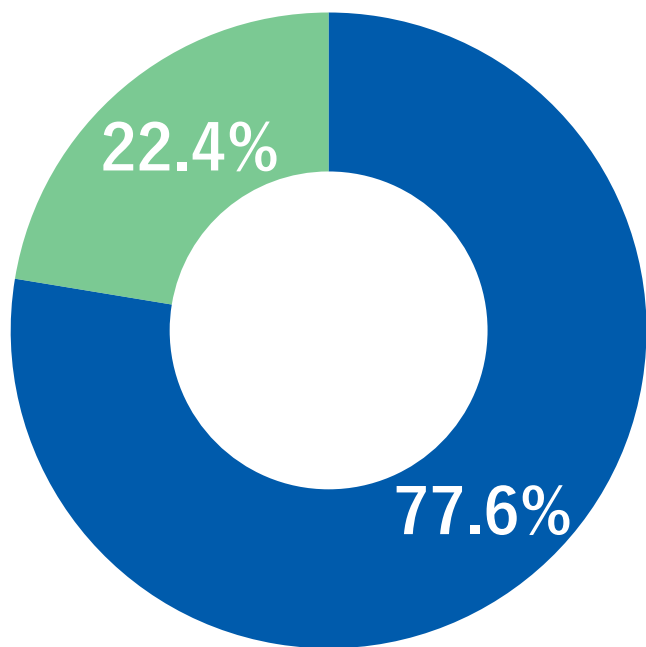
会社概要

基本情報（2023年9月末現在）

社名	サンコーテクノ株式会社
設立	1964年5月15日
代表者	洞下 英人（ほらげ ひでと）
所在地	千葉県流山市南流山三丁目10番地16
社員数	連結：670名 単体：345名
資本金	768百万円
国内拠点	19拠点
連結子会社	13社（海外3社含む）
市場	東証スタンダード市場
事業内容	建設資材（あと施工アンカー・ドリルビット・ファスナー等）、 複合材、各種測定器の企画開発・製造・販売・施工および輸出入



事業セグメント構成（2023年3月期実績）



売上高
20,604百万円

ファスニング事業（売上高：15,988百万円）

あと施工アンカー・ドリルビットの開発・製造・販売
土木建築関連（耐震工事）・太陽光関連の工事管理 等



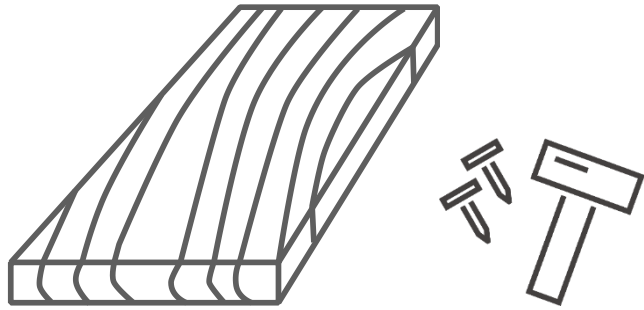
機能材事業（売上高：4,615百万円）

電動油圧工具関連およびFRPシート関連、電子プリント基板
や各種測定器および包装・物流機器の製造・販売 等

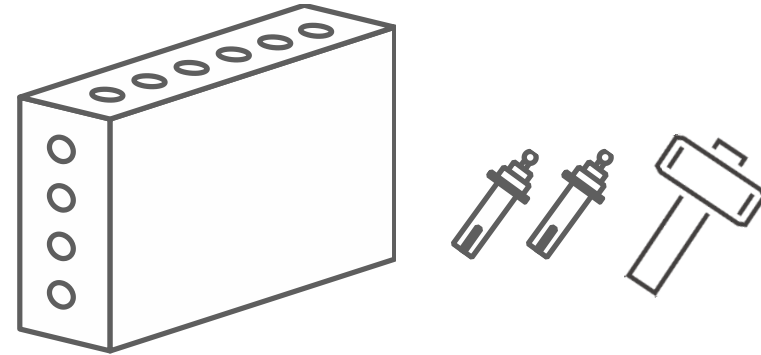


「あと施工アンカー」について

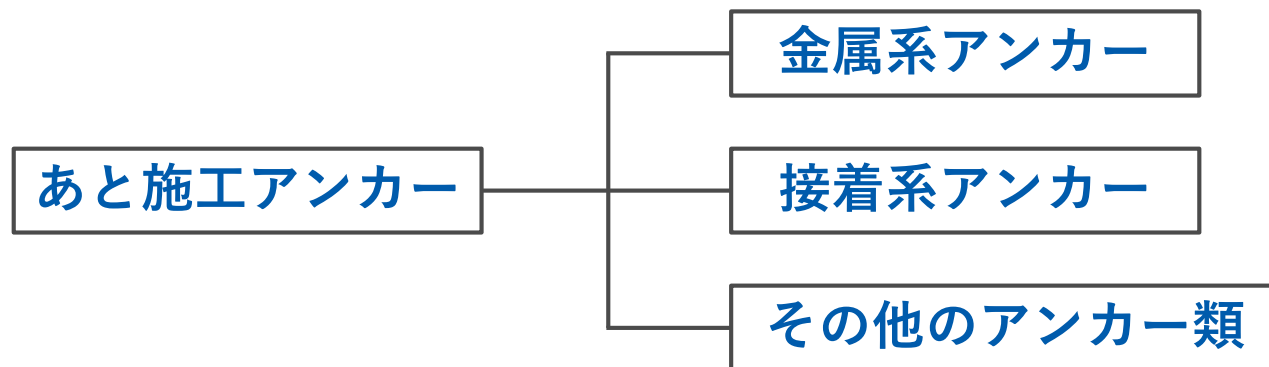
あと施工アンカーは、コンクリートなどに対して物を固定・取り付ける際に使用されます



木材などには「釘」



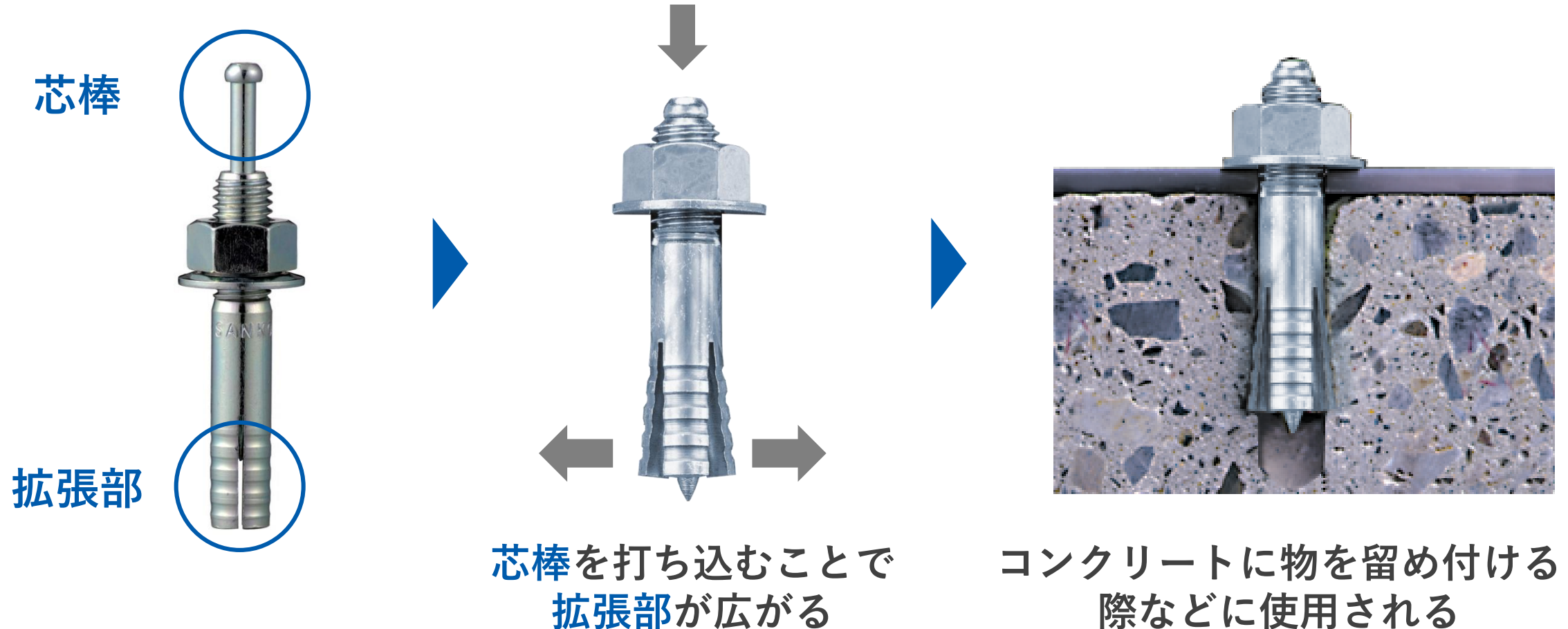
コンクリートなどには「あと施工アンカー」



あと施工アンカーには大きく分けて3つの分類がありそこからさらに21の分類に

あと施工アンカーの仕組み（芯棒打込み式の場合）

製品名：オールアンカー



こんなところにサンコーテクノ

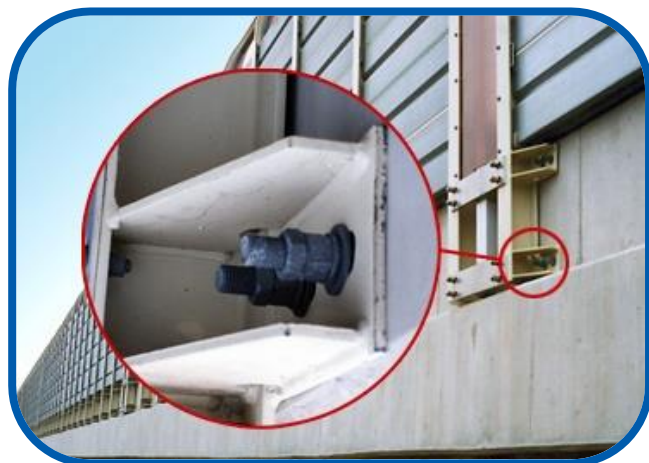
あと施工アンカーは、身近なところで使用されています。看板や標識の取付けから配管設備の固定、ソーラーパネルの設置から耐震補強に使用されるなどその用途はさまざまです



建物の耐震補強に・・



手すりの取付けに・・



高速道路の防音壁に・・



看板・標識の取付けに・・

ソーラーパネルの設置に・・

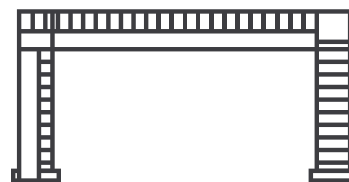


機能材事業の主要製品

建設現場で切断・穿孔・曲げる
省人化・省力化に電動油圧工具



コンクリート構造物・鋼構造物の
補修・補強にFRPシート



運転前後のアルコール測定に
呼気アルコール検知器



梱包作業の省人化・省力化に
パレットストレッチ包装機



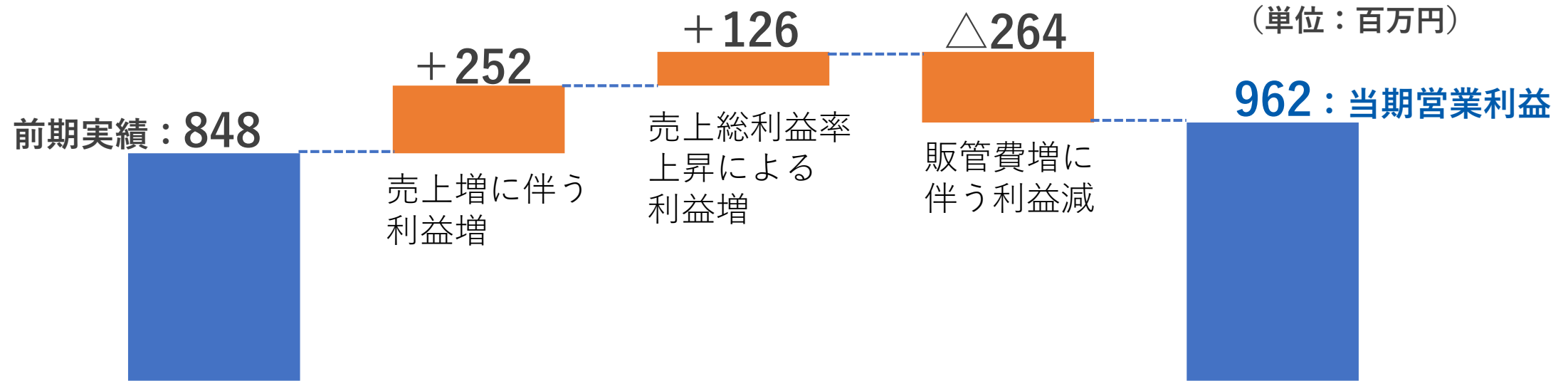
2024年3月 第2四半期 実績

決算概況

- 売上高・利益ともに、上半期として過去最高を更新
- 建設市況は民間・公共ともに底堅く、あと施工アンカーの販売が好調に推移した
- 人件費等の販管費が増加したものの、営業利益率は計画値を確保

(百万円)	2023年3月期 第2Q累計実績	2024年3月期 第2Q累計予想	2024年3月期 第2Q累計実績	前年同期比		対予想比	
売上高	9,325	9,600	10,157	+ 832	+ 8.9%	+ 557	+ 5.8%
営業利益	848	850	962	+ 114	+ 13.5%	+ 112	+ 13.2%
営業利益率 (%)	9.1%	8.9%	9.5%	+ 0.4pt	—	+ 0.6pt	—
経常利益	821	840	935	+ 113	+ 13.9%	+ 95	+ 11.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	595	884	926	+ 330	+ 55.5%	+ 42	+ 4.8%

決算概況（営業増益要因分析）

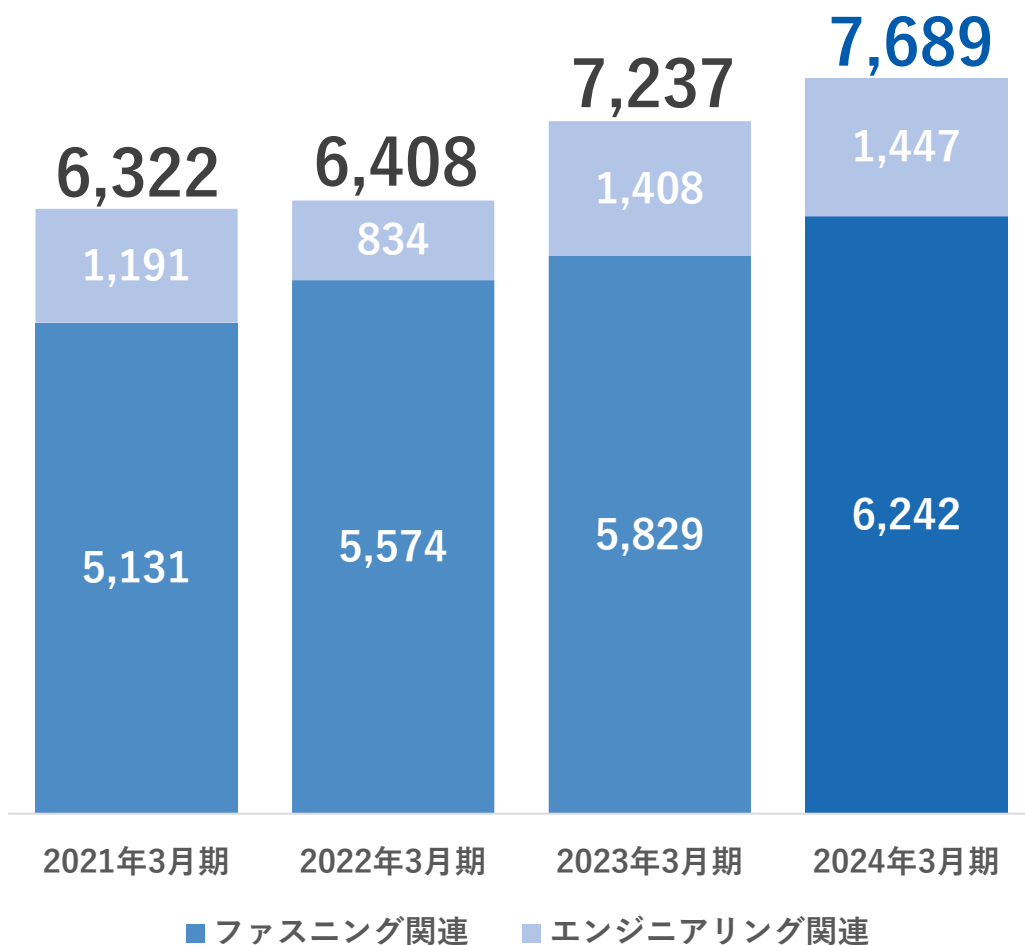


売上増減要因	<ul style="list-style-type: none"> ■ファスニング事業（材販）：+412百万円 ■ファスニング事業（工事）：+39百万円 ■機能材事業：+379百万円
利益率増減要因	前期下半期（11月）に実施した価格改定（為替レートの影響分）と工事売上総利益率の改善によりアップした一方で、新規連結分については利益面での寄与はなし
販管費増加要因	人件費の増加および、新規連結の各子会社の販管費分が増加した

ファスニング事業（2024年3月期第2四半期）

売上高推移（第2Q累計）

（百万円）



	実績（百万円）	前年同期比
売上高	7,689	+6.3%
セグメント利益	1,151	+15.9%

■ ファスニング関連

- ・ 2022年11月の価格改定分が寄与
- ・ 主力のあと施工アンカーが好調に推移
- ・ 海外販売については、前年を下回った

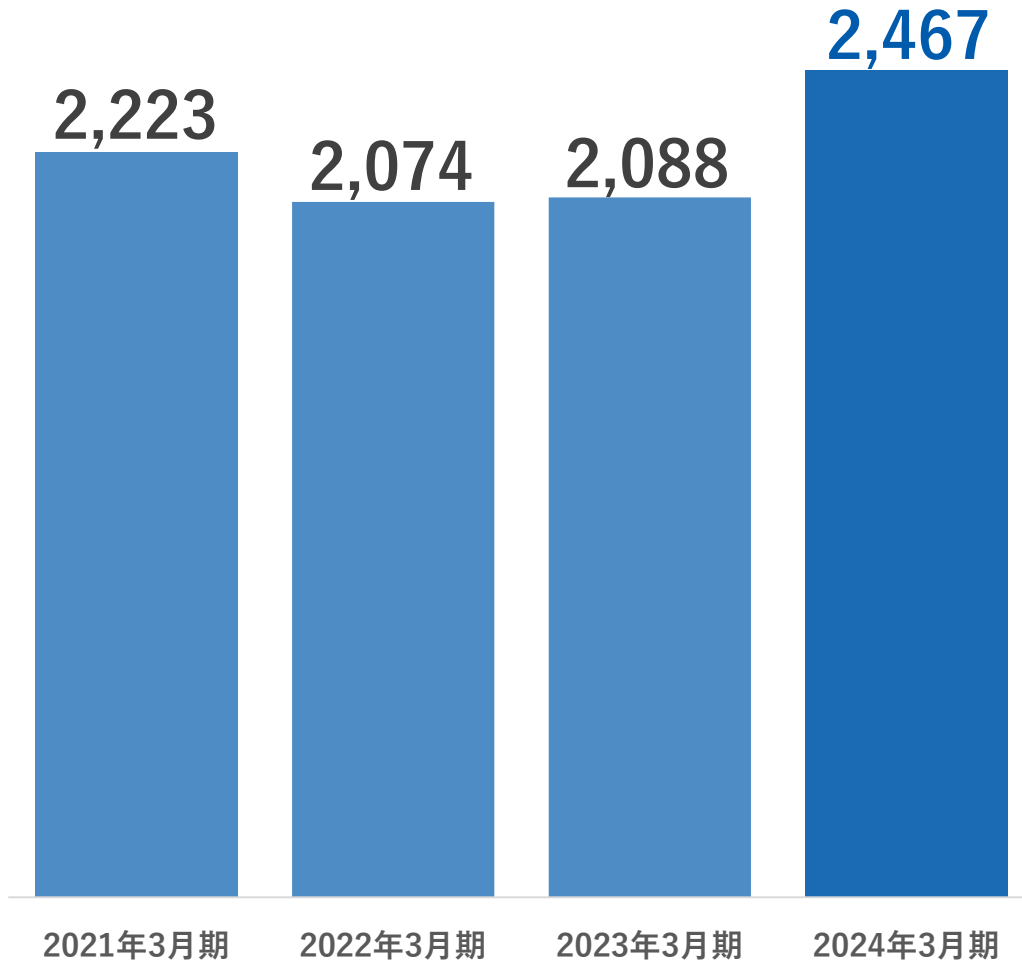
■ エンジニアリング関連

- ・ インフラメンテナンス需要の下支えがあり、土木工事の受注が順調に進捗
- ・ 受注工事の大型化により「工事進行基準」が適用される案件が増え、下期偏重傾向が軽減

機能材事業（2024年3月期第2四半期）

売上高推移（第2Q累計）

（百万円）



	実績（百万円）	前年同期比
売上高	2,467	+18.2%
セグメント利益	288	+1.1%

■ 電動油圧工具関連

- ・国内・海外ともに前年をやや下回る水準で推移
- ・海外販売における回復度合が、前期よりも鈍化

■ センサー関連

- ・アルコール検知器設置の特需に一服感
- ・電子基板関連の受注および生産が好調

■ FRPシート関連

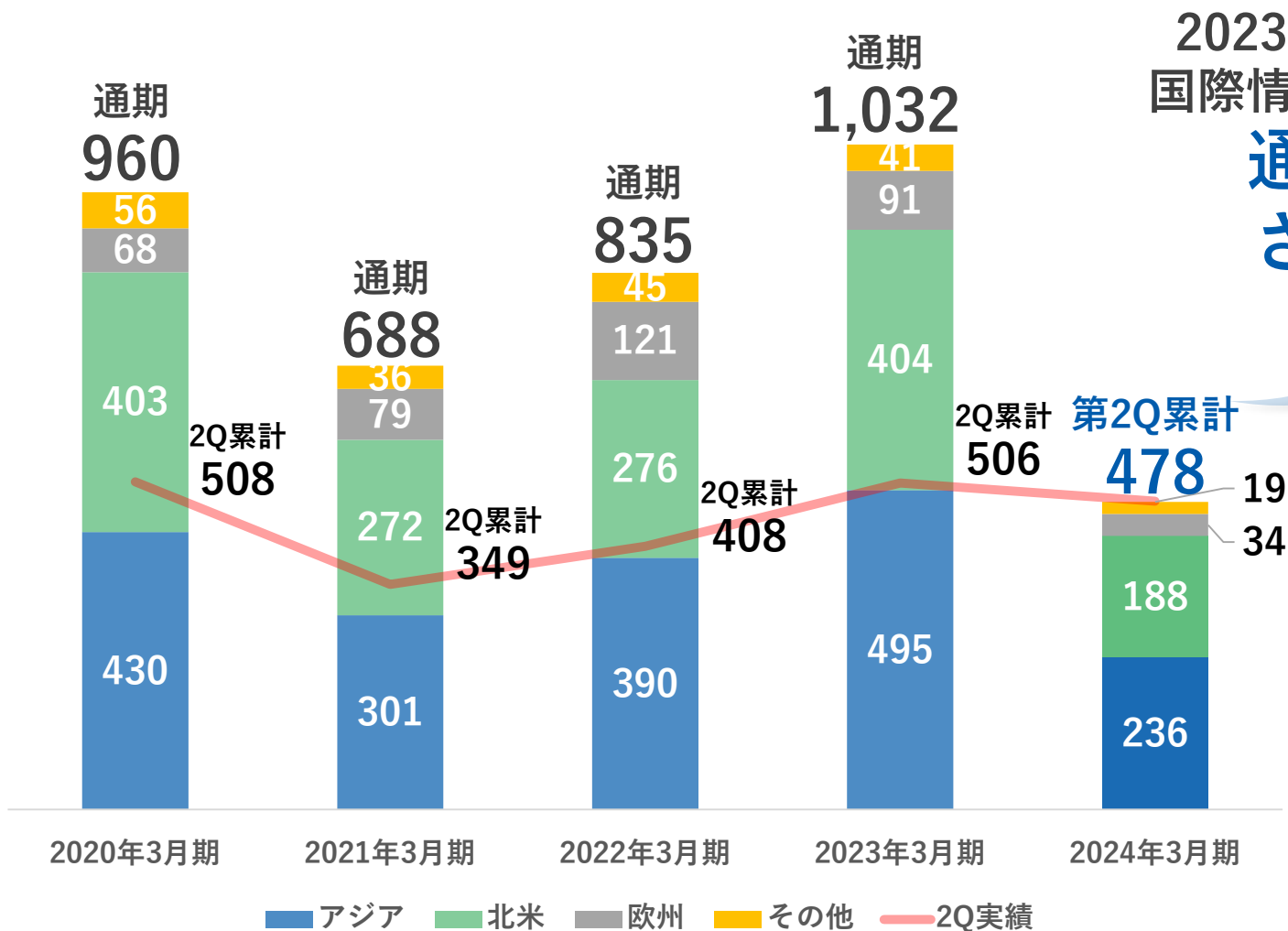
- ・e-シート関連商材のインフラ向けが低調に推移

■ 包装・物流機器関連

- ・前期（ユーロ高等の影響で不調）から大幅に回復

地域別海外売上高推移

(百万円)



2023年3月期と比較すると回復基調は鈍化。国際情勢に起因した物流停滞等に注視しつつ、

通期10億円をベースとしたさらなる売上拡大を目指す

【2Q地域別 カッコ内：前年比増減】

- アジア：236百万円 (△5百万円)
- 北米：188百万円 (△5百万円)
- 欧州：34百万円 (△11百万円)
- その他：19百万円 (△6百万円)

貸借対照表およびキャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

連結貸借対照表	2023年3月期	2024年3月期 第2四半期	増減額
現金及び預金	2,358	2,674	+ 316
棚卸資産	5,921	6,385	+ 464
その他の流動資産	4,815	4,974	+ 158
有形固定資産	6,512	6,937	+ 424
その他の固定資産	1,300	2,759	+ 1,458
総資産	20,908	23,730	+ 2,821
負債	5,038	6,922	+ 1,884
純資産	15,870	16,807	+ 936

単位：百万円

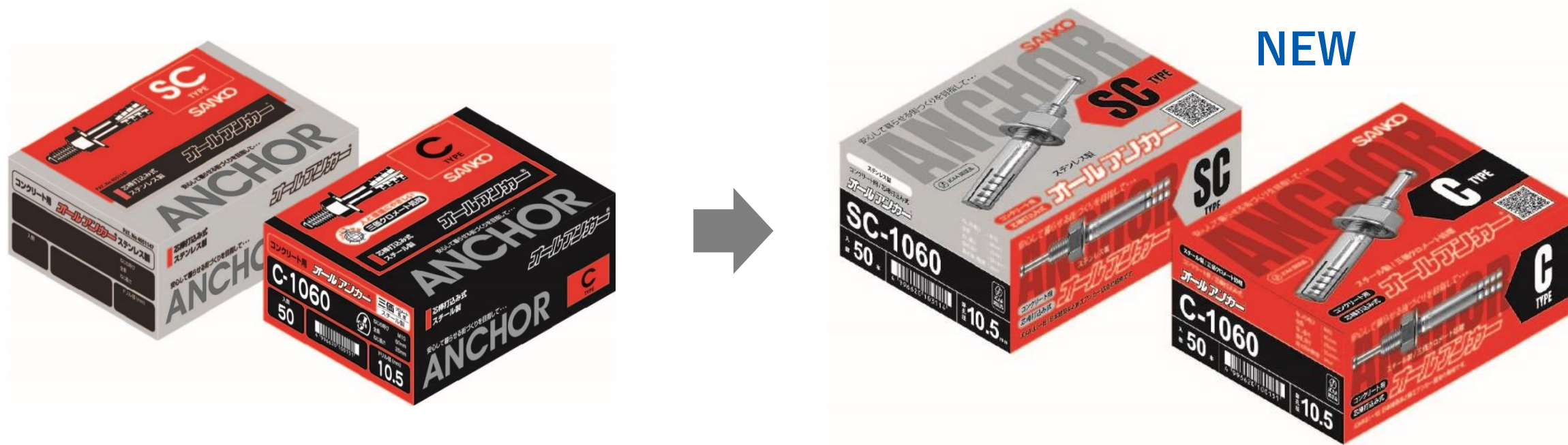
連結キャッシュ・フロー	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	213	561
投資活動によるキャッシュ・フロー	△255	△1,542
財務活動によるキャッシュ・フロー	△22	1,265
現金及び現金同等物に係る換算差額	68	26
現金及び現金同等物の期末残高	2,338	2,611
フリーキャッシュ・フロー	△41	△980

■ 主な増減理由

- ・ **棚卸資産**
商品及び製品、原材料及び貯蔵品の増加
- ・ **有形固定資産**
(M&Aに伴う) 建物、土地の増加
- ・ **その他固定資産**
(M&Aに伴う) 投資有価証券、
保険積立金等の増加
- ・ **負債**
長期借入金の増加
- ・ **純資産**
利益剰余金の増加
- ・ **投資活動によるキャッシュ・フロー**
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得
による支出

■環境配慮型パッケージにリニューアル

- ・化粧箱の材質を、これまでのコートボール紙から段ボールへと切り替えました。
- ・この取組みは、年間2.4トンのCO2削減につながります。



※2023年4月より、順次切替えを進めております

※今年度は当社の創業60年目にあたり、その節目に材質改善と併せて化粧箱のデザインも約20年ぶりにリニューアルしました。

2024年3月期第2四半期のトピックス

■新光ナイロン株式会社がグループの一員になりました（2023年4月6日）

企業名	新光ナイロン株式会社
URL	https://shinko-nylon.co.jp/
所在地	本社：大阪府箕面市瀬川五丁目4番25号 埼玉工場：埼玉県加須市道地1303-4 兵庫工場：兵庫県赤穂郡上郡町山野里字新田333-2
創立	1958年7月2日
事業内容	土木用暗渠排水材等の合成樹脂立体網状構造体の製造・販売
従業員数	16名
資本金	96百万円
年商	288百万円



プラスチック立体網状成形品

ヘチマロン



土木用のほか、汚水浄化用として活用されています。また、ポリエチレン系の樹脂を使用した「ヘチマロンPE」は災害備蓄用のベットにも採用されています。

2024年3月期第2四半期のトピックス

■株式会社光洋がグループの一員になりました（2023年4月25日）

企業名	株式会社光洋
URL	https://www.koyoinc.co.jp/
所在地	本社：東京都台東区東上野2-12-8芳屋ビル4階 福島工場：福島県須賀川市小倉字向山108
創立	1970年5月12日
事業内容	端末機用入力キーボード・メンブレンスイッチ等の設計・開発・製造 各種フィルム材料の加工・印刷およびプリント基板の設計・製造 プラスチック成形部品・板金部品・銘板の設計・製造
従業員数	35名
資本金	40百万円
年商	610百万円



2024年3月期通期計画

2024年3月期 通期計画

- インフラ・土木向けの需要は堅調な推移を見込む
- 一方、原材料の高騰や物流停滞、物価高騰など、不透明な状況が続くことや、人件費および各種経費増を見込むことから、期初計画を継続（※）

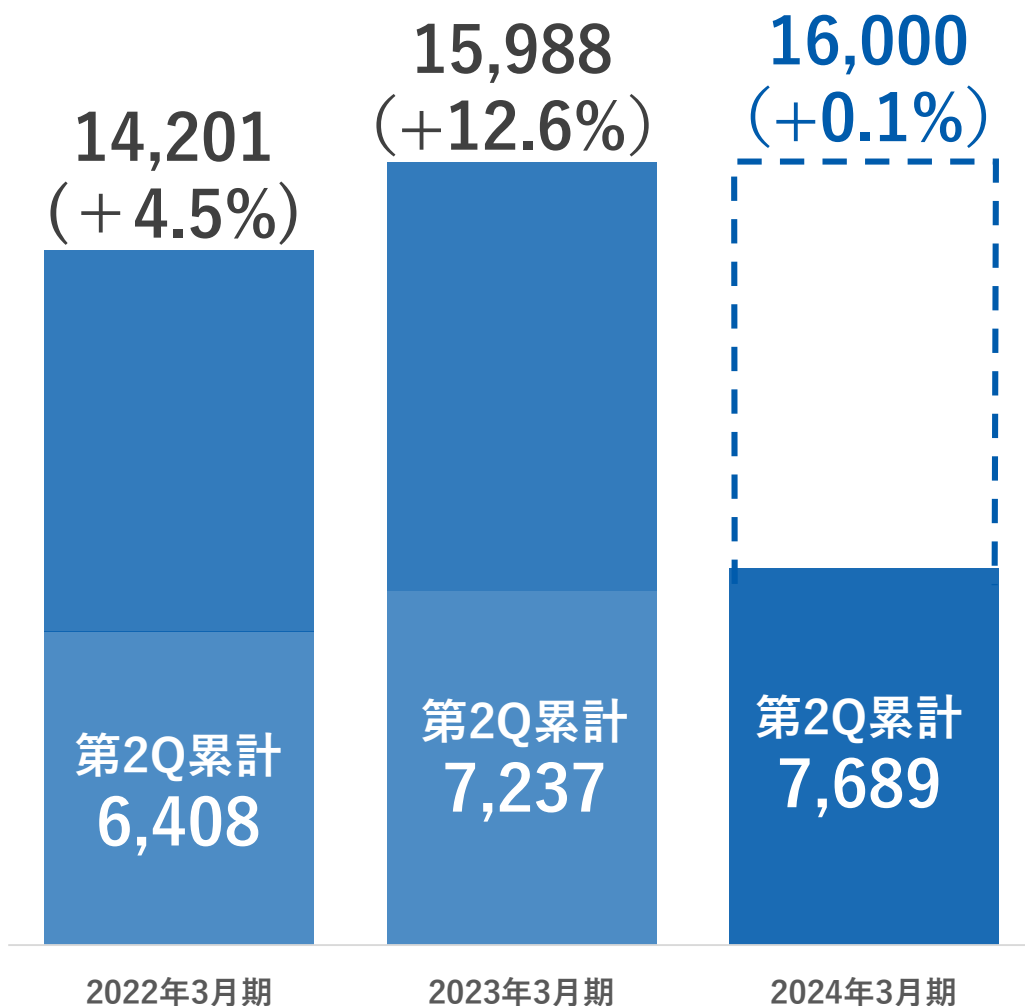
※特別利益（負ののれん発生益）の計上に伴い、当期純利益のみ8/4修正開示

(百万円)	2023年3月期 実績	※5月12日公表 2024年3月期 計画	※8月4日公表 2024年3月期 計画	前年同期比
売上高	20,604	21,000	21,000	+1.9%
営業利益	1,978	1,950	1,950	△1.4%
経常利益	1,948	1,950	1,950	+0.1%
親会社株主に帰属 する 当期純利益	1,395	<u>1,360</u>	<u>1,659</u>	+18.8%

売上高推移

(百万円)

2024年3月期目標：16,000百万円



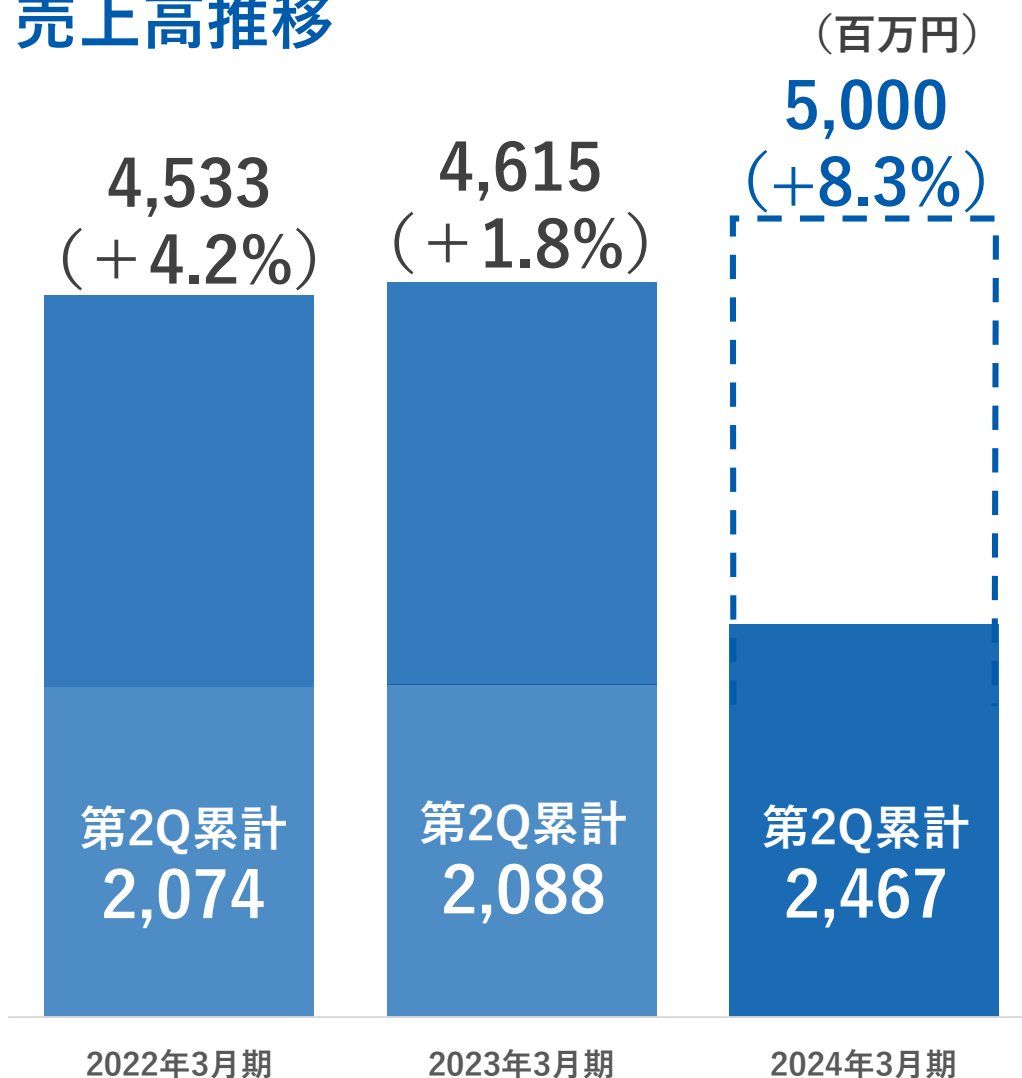
■ ファスニング関連

- ・第3四半期以降においても、インフラ土木向けの需要は堅調な推移を見込む
- ・鋼材価格は高止まりの状態。また、ナフサ価格高騰により、一部の接着系アンカーで、8月に価格改定を実施

■ エンジニアリング関連

- ・土木工事の安定した受注とインフラメンテナンスの下支えにより堅調に推移する見込み
- ・設計検証の影響や材料価格の高騰による着工遅れの懸念が残るが適切に対処できると想定
- ・完成工事高の前期水準は、下回る見通し

売上高推移



2024年3月期目標：5,000百万円

■ 電動油圧工具関連

- ・海外販売の回復が鈍化している一方、堅調な国内販売にけん引され、おおむね前年並みを見込む

■ センサー関連

- ・アルコール検知器関連は、上半期に前年を下回ったが、新たに「ALC Face Mobile」を投入し、回復を目指す
- ・電子基板関連の受注および生産は好調な推移だが、半導体・電子部品不足の影響が残る（年内の正常化を想定）

■ FRPシート関連

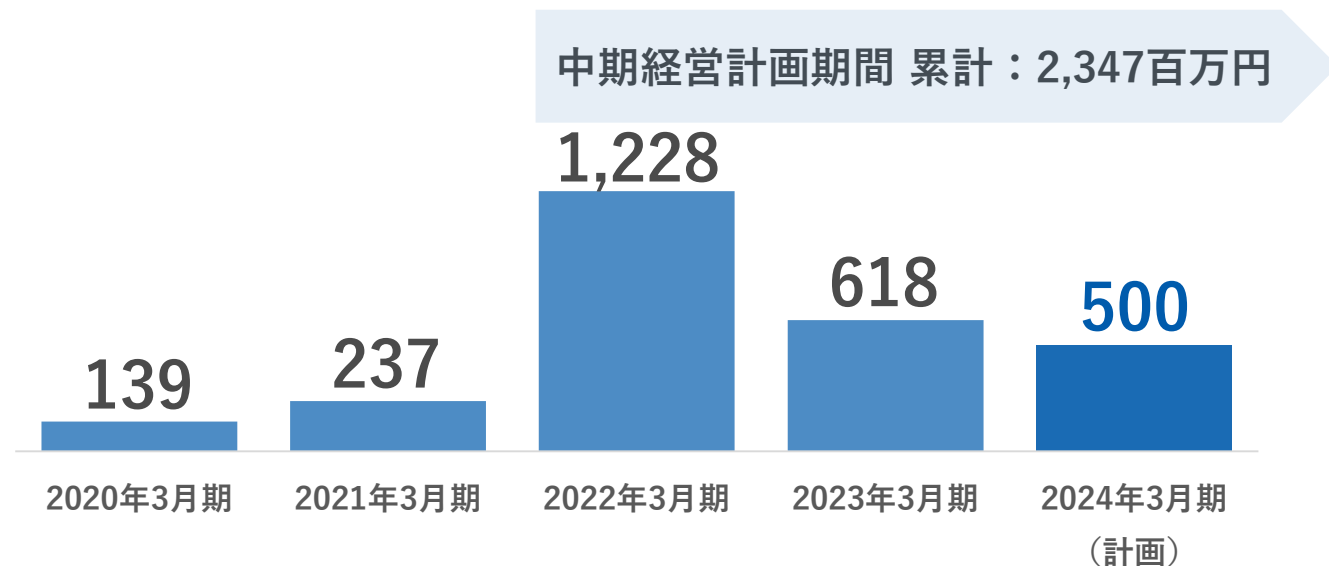
- ・インフラ予算再編の影響も懸念されるが回復を見込む

■ 包装・物流機器関連

- ・プラスチック不使用の100%紙製ブリスター包装を可能とする機器など、PRを推進。物流2024年問題を背景に需要の回復を見込む

2024年3月期 設備投資計画

設備投資額 (百万円)



■2024年3月期 主な設備投資計画

- ・製造設備の追加および刷新
子会社を含めた国内外の工場における製造設備を増強することで安定性・生産性の向上を図る

定性目標 (Vision2023) の達成
にっそう磨きをかけ、
次期 中期経営計画へ
必要な投資を継続

◀試作加工スペース「FUTECH LAB」
2022年2月～稼働

配当	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期 (予想)
1株当たり 年間配当金 (円)	26.0	26.0	28.0	30.0	33.0 (※1)
配当性向 (%)	21.0	20.3	20.6	16.9	15.7 (※2)

(※1) 2024年3月期 (予想) 33円には、創立60周年記念配当金1円を含んでおります。

(※2) 8月4日修正開示後の1株当たり当期純利益をもとに算出しております。

配当方針

必要な内部留保は確保しつつ、安定的・継続的な増配を目指す

PBR改善策

既存事業の更なる成長およびM&A戦略の推進により、資本効率を意識した経営を実行、安定増配とIR活動の推進を通じて、PBR1.0倍以上の早期回復を目指す

株主優待

当社株式を1単元（100株）以上保有の株主様に一律、500円分のQUOカード（クオ・カード）を贈呈



中期経営計画（～2023年度）達成状況

中期経営計画（2021～2023年度）

S.T.G Vision 2023

私たちは、独自の技術とサービスに磨きをかけ、
安全・安心の価値を追究して、社会に役立つ集団となります

2023年度経営計画

売上高 **200億円以上** 売上高経常利益率 **8%以上**

※設備投資 **15億円程度**（M&Aを除く）

ファスニング事業

2023年度売上計画：145億円以上 ⇒2022年度 超過達成

①ファスニング関連

製品・技術・サービスをバランスよく提供する「ソリューション営業」
地域密着型拠点戦略と事業本部のサポート体制で「顧客接点」を最大化

②エンジニアリング関連

「現場力」のさらなる向上へ
調査 → 提案（設計） → 工事受注までの流れを構築
協力業者との強固な信頼関係を構築

機能材事業

2023年度売上計画：55億円以上 ⇒2023年度 50億円見込

①電動油圧工具関連

国内拠点の販売網を活用した製品のさらなるPR活動
北米を中心とした海外売上高の回復

②アルコール検知器関連

安全・安心（健康）をキーワードとした新規サービスの追究
メンテナンス事業拡大とコト売りの「核」へ成長

③物流・包装機器関連

メンテナンス力の向上とコト売りへのシフト

④電子基板関連

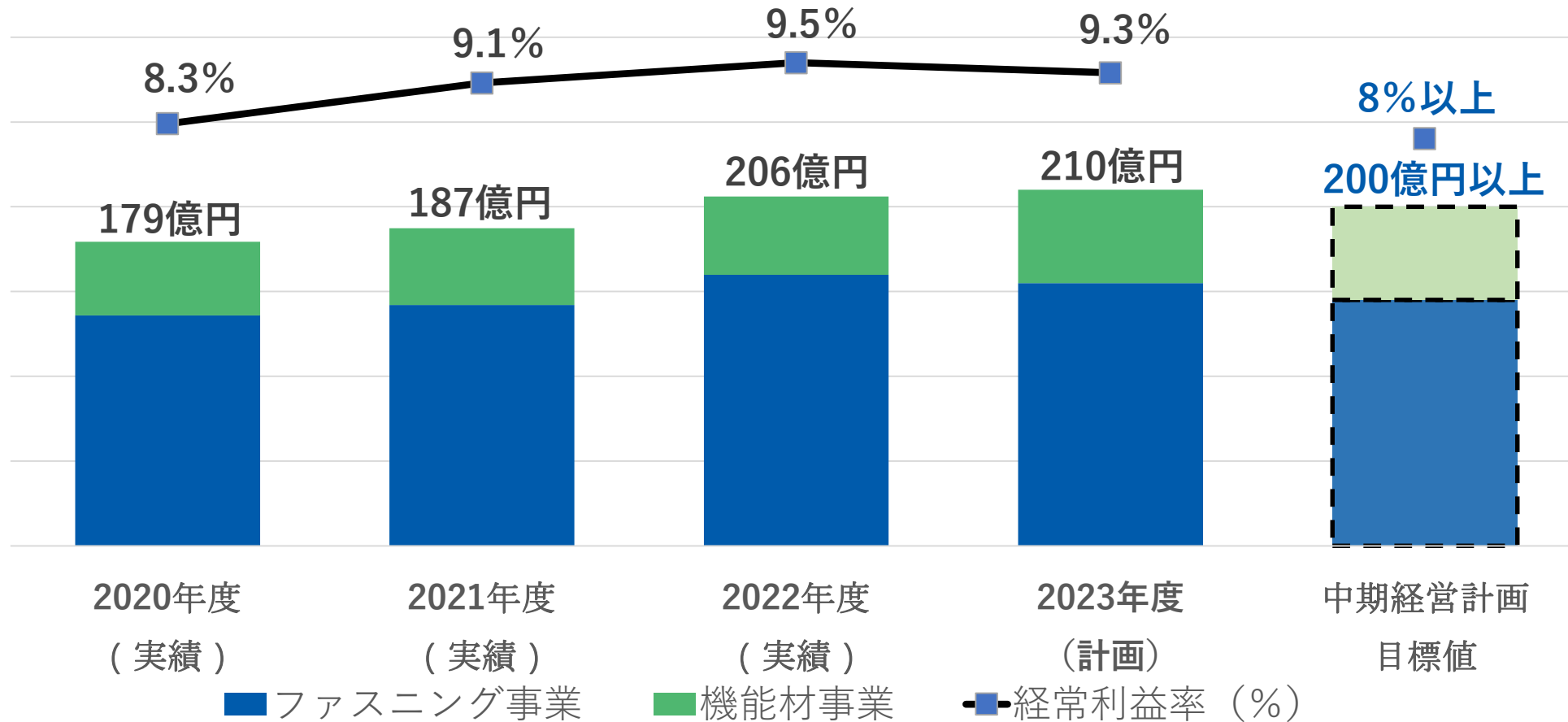
グループ会社間のシナジーの追究

⑤FRPシート関連

歩道橋補修工法の全国展開

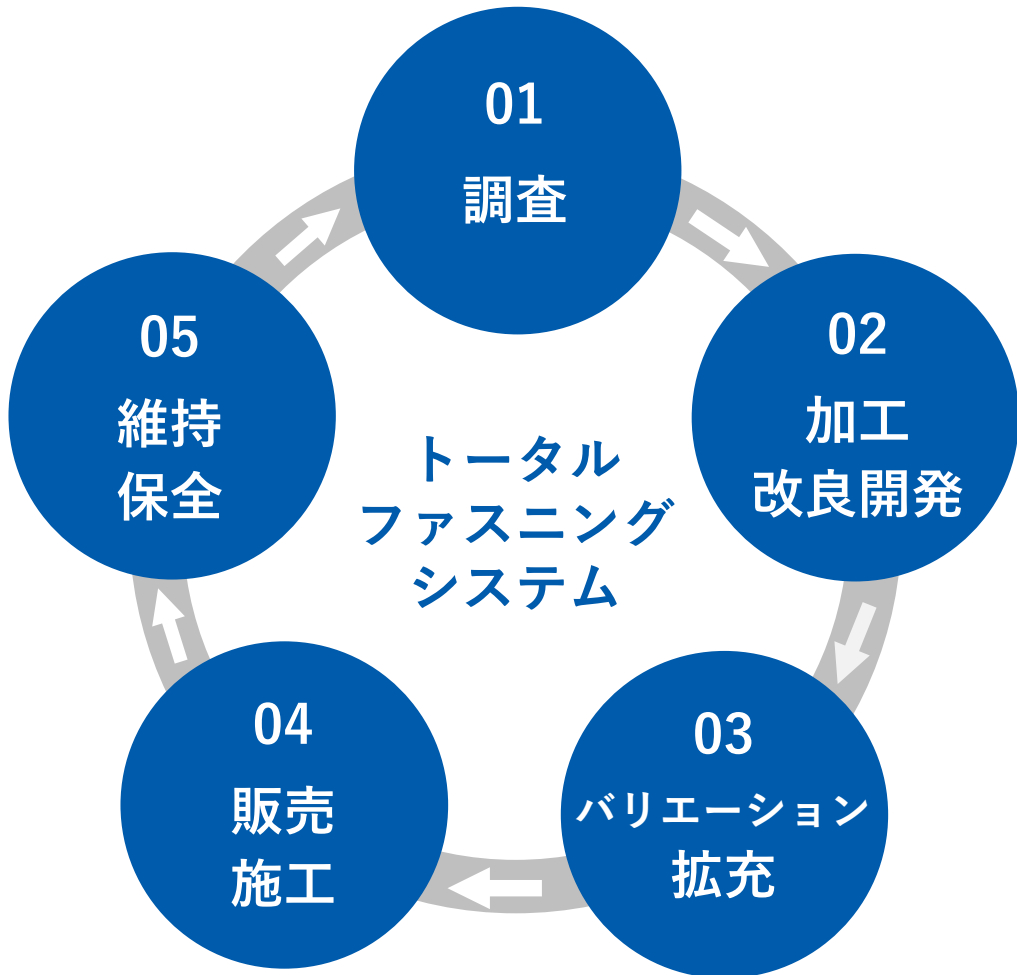
中期経営計画（2021-2023年度）の進捗

売上高および経常利益率の推移



2023年度（最終年）：中期経営計画 計画値超過達成を見込む

中期経営計画における重点施策（土木分野の強化）



01 調査
IT技術を活用した調査で作業時間の短縮



02 加工・改良開発
日本メカニックと営業開発部による迅速な顧客対応



03 バリエーション拡充
製品バリエーションの拡充により使用シーンの拡大を図る



04 販売：全国の当社グループ拠点（31拠点）と販売代理店（5000社以上）から成る販売網の活用
施工：作業効率を高める施工ツールの提供と施工管理による情報収集

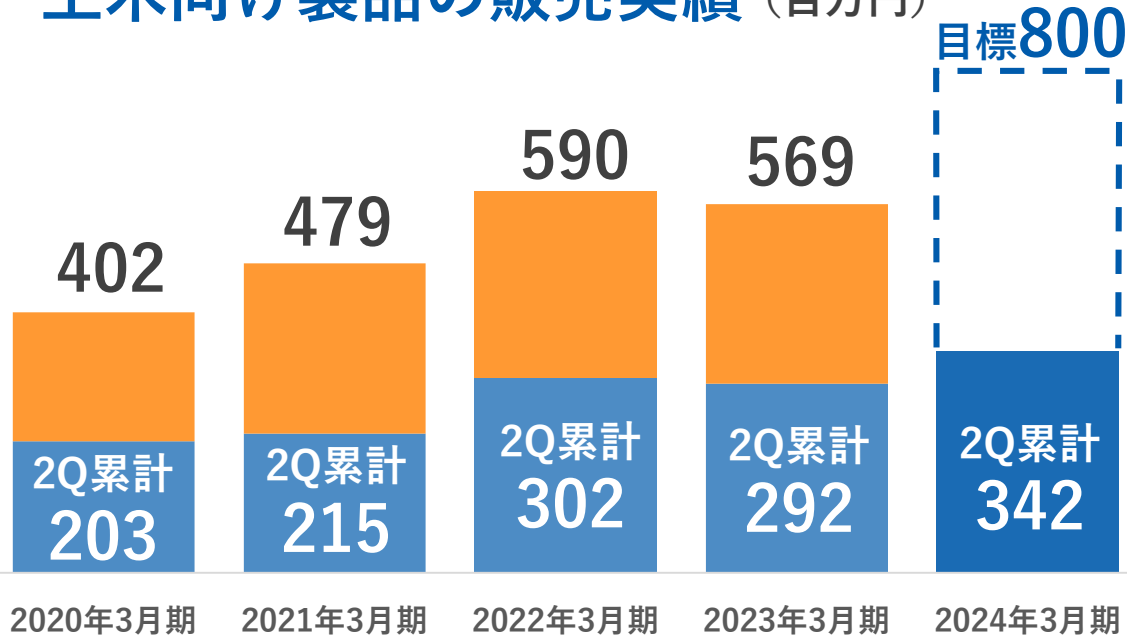
05 維持・保全
製品販売・施工後のアフターサポートの充実化により顧客満足度の向上



土木向けのトータルファスニングシステムを構築し、付加価値の向上を図る

中期経営計画における重点施策の進捗（土木分野の強化）

土木向け製品の販売実績（百万円）

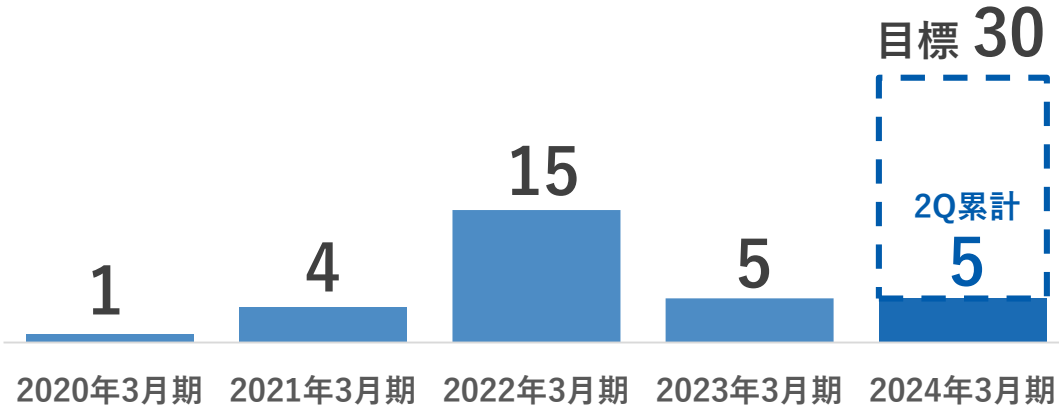


インフラ需要は堅調であるが、材料高騰・工期遅れ等の影響で実績が想定を下回った



中期経営計画における重点施策の進捗（土木分野の強化）

スキャンニング&モデリングサービスの依頼案件数の推移

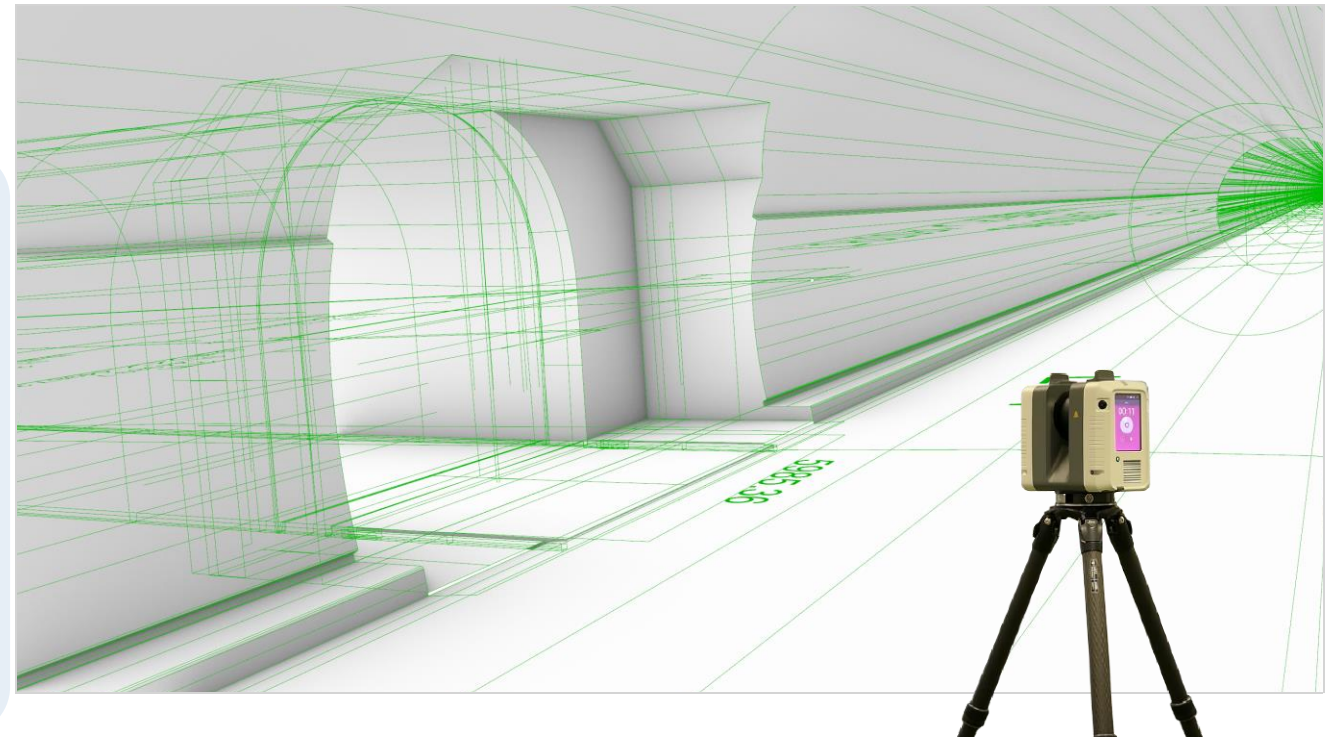


(件)

⇒ 建設現場のDX化に伴い需要は増加しており、トンネル照明を中心にPRを継続し、目標値達成を目指す

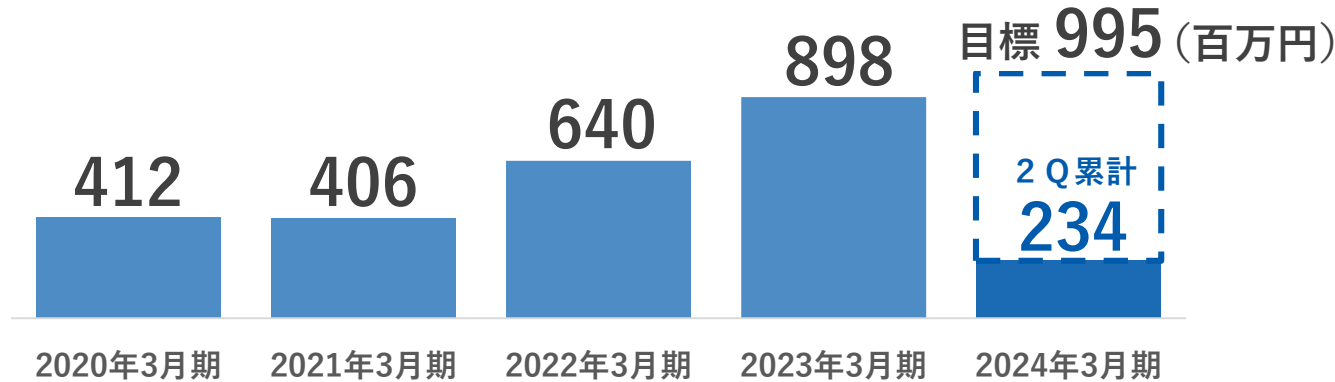


- 現場での計測作業を安全かつ短時間で実施
- スキャンニングしたデータを仮想空間としてPC内で表現



中期経営計画における重点施策の進捗（機能材事業の強化）

アルコール検知器関連の売上高推移



「アルコール測定」と「顔写真撮影」が同時に行えるALCFaceST-2000

道路交通法改正について

『白ナンバー事業者におけるアルコール検知器を使用した酒気帯び有無の確認』義務化は、アルコール検知器の供給キャパシティが考慮され延期されていたが、警察庁は6月、2023年12月1日より改正する方針を固め、8月に公布された。



緑ナンバー事業者（トラック・バス・タクシーなど）
義務化：2011年5月～

白ナンバー事業者（安全運転管理者選任事業所）
義務化：2022年10月～（延期） → **2023年12月～**

次期中計に向けて

コロナ感染拡大～経済封鎖～鎖国状態～緩和対策（Withコロナ）
ロシアのウクライナ侵攻～EUに向けた物資供給不足
環境対策～SDGsおよび脱炭素対策～プラスチックの減少

デフレスパイラル～インフレへ

原油高騰～ナフサ高騰～電気料高騰により、鋼材、樹脂等値上げ
自動車産業のモーター化による半導体不足等
生活必需品の高騰

価格高騰による影響

建築受注の減少、
機械等の投資減少、
輸入商品の高騰から内製化へ

環境対策による影響

脱プラスチック～
紙需要増や梱包資材の変更

物価上昇による影響

賃金上昇、
物の価値が変化

甚大化する自然災害

南海トラフ・台風・洪水災害

超高齢社会の進行

国税・年金負担増

原燃料高騰
食料問題
電力問題

多様性社会の浸透

外国人雇用対策・女性活躍

不測の事態多発

未知のウイルス等

IT・AI・DX加速

働き方改革・自動化

インフレ加速

原材料高騰一調達難
によるコスト高

働き方改革

IoT化、RPA化、AI化の普及

安定した維持保全市場

50年以上のインフラ構造物
10年間≒15兆円

リニア敷設&大阪万博



SDG'sの取組み

社会と調和した
サステイナブル経営

為替の乱高下

仕入価格の変動
原価が不安定

流通網の再編

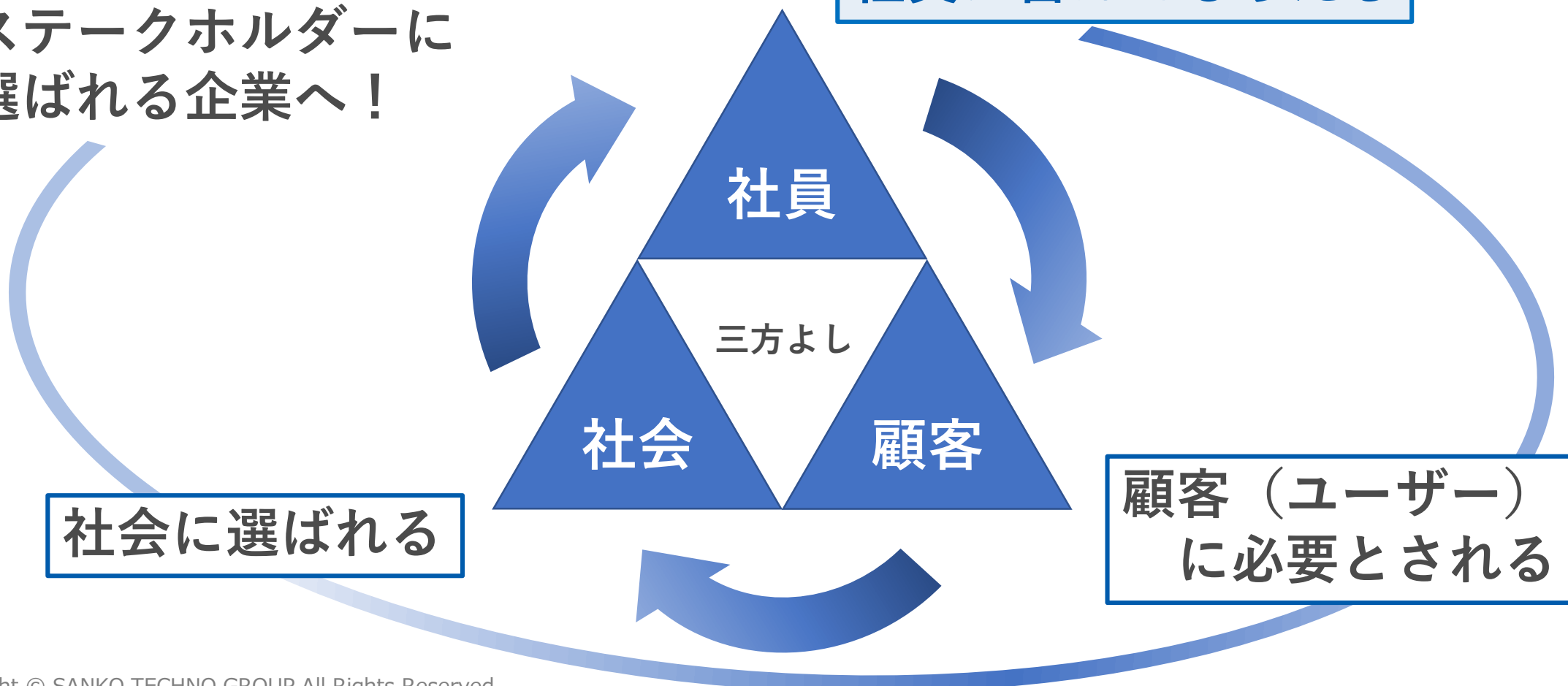
問屋の優勝劣敗
HCの巨大化

必要とされる企業を目指す！

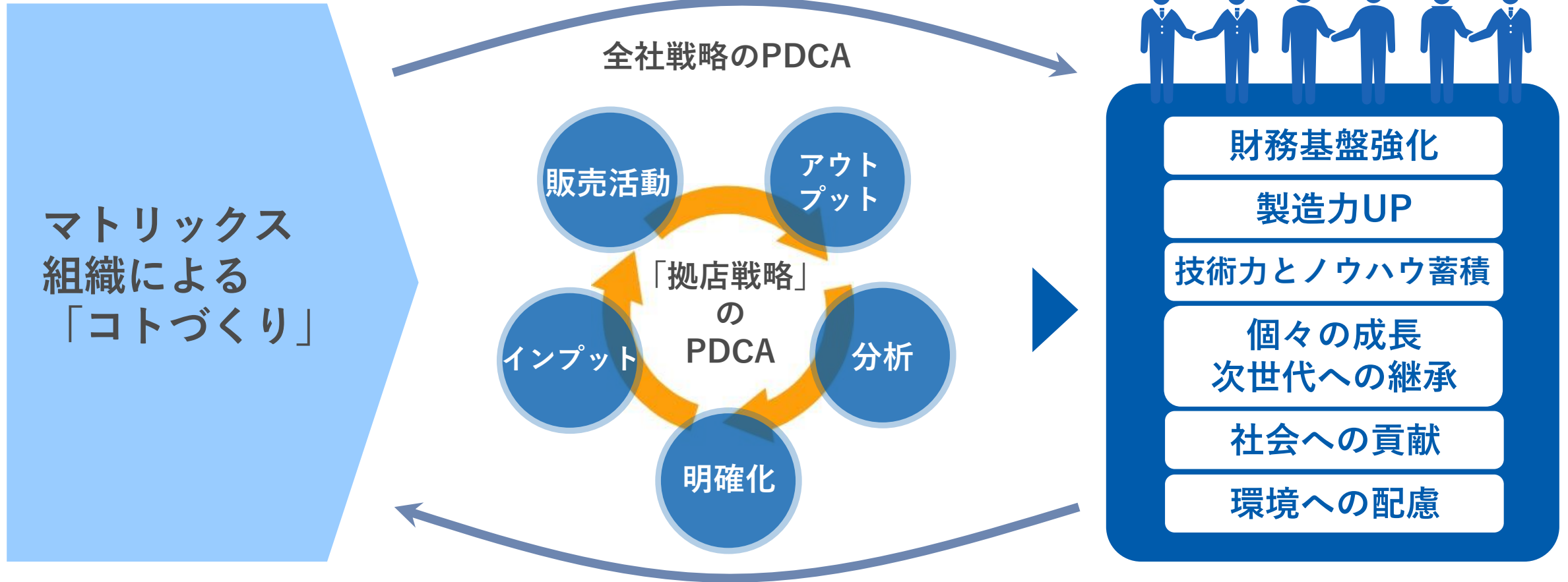
何をすべきか？起点は・・・

社員に喜んでもらえる

ステークホルダーに
選ばれる企業へ！



「コトづくり」に挑戦し、必要とされる企業に！

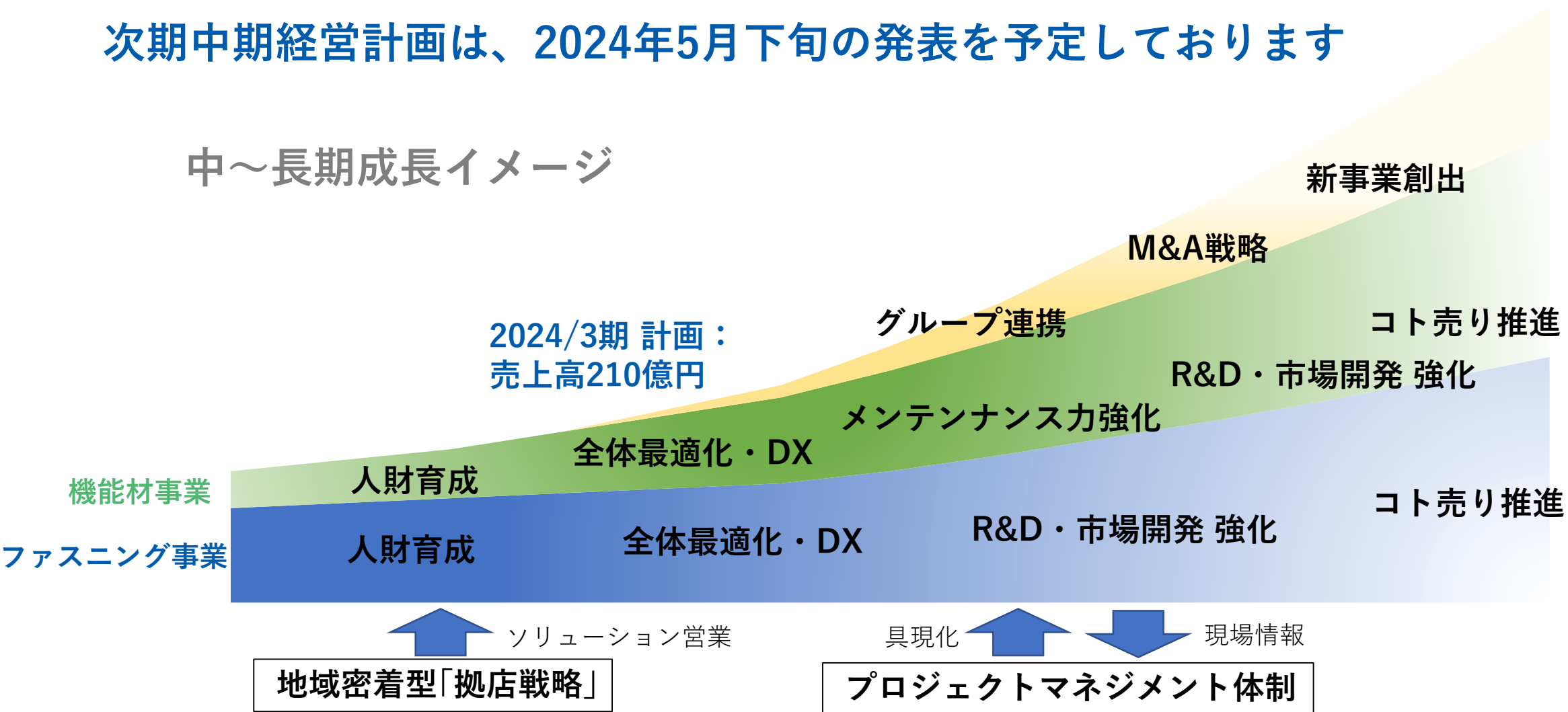


「コトづくり」を通じて
一人ひとりの
やりがい・成長へ！

次期中期経営計画の発表時期

次期中期経営計画は、2024年5月下旬の発表を予定しております

中～長期成長イメージ



環境負荷の低減



当社グループの一部社屋に太陽光発電システムの設置や自然環境・作業環境にやさしい製品の開発など環境に配慮した取組みを推進

安全かつ強靱な 建造物の形成



独自の締結技術を軸に経年劣化により耐久性の低下した建造物の補修や自然災害に強い街づくりを支援

女性活躍の推進



「女性活躍推進協議会」を起点に産休・育休キャリアマップやママサポート相談窓口の設置産休・育休取得の推進・支援女性管理職比率の向上を図る

紙パッケージ製造 機器の販売



グループ会社の成光産業で
プラスチック不使用の
100%紙製ブリスター包装を可能と
する機器（イリッヒ社製）を販売

地元サッカークラブ とパートナー契約



本社が所在する千葉県流山市で
初の社会人サッカークラブである
NAGAREYAMA F.C. とともに
街の地域活性化に貢献

ちばSDGsパートナー の登録企業に



千葉県が創設した
「ちばSDGsパートナー登録制度」に
パートナー企業として登録

ESGの取組み・サステナビリティに関する取組み

ホームページに「健康経営」サイトを開設（2023年9月～）

当社が経営基本方針として掲げる「人のお役に立つために、創造提案型企業を目指す」の遂行には、社員一人ひとりが健康であり続けることが肝要との認識のもと、健康企業宣言を行いました。これに伴い、健康課題・目標・改善施策・KPIを定め取組みをスタートしています。



サステナビリティに関する取組み

当社グループにおける、人材の多様性の確保を含む人材の育成に関する方針及び社内環境整備に関する方針は、サンコーテクノグループの役員および社員が遵守しているS.T.Gモラル憲章をもとに戦略を定め取り組んでおります。公表している指標は下記の通りです。

	目標	実績（前事業年度末）
役職者（係長級）における女性労働者の割合	2025年3月までに10%	14.6%
平均勤続年数	2025年3月までに 男女とも15年以上	男性：15.1年 女性：10.7年

ご清聴ありがとうございました



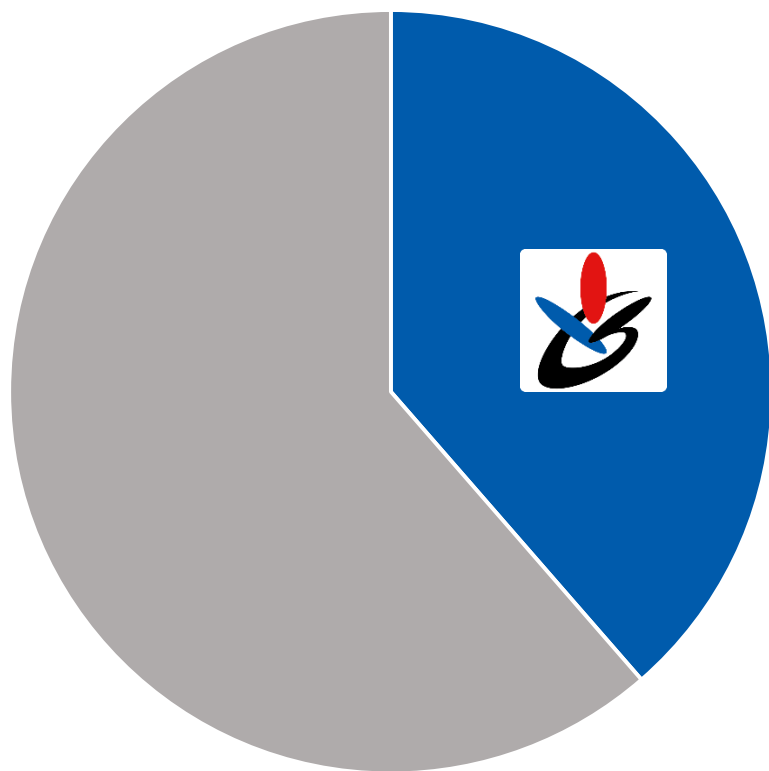
Appendix

あと施工アンカー市場における高い市場シェア

あと施工アンカー生産額市場規模

20,504百万円（25社）

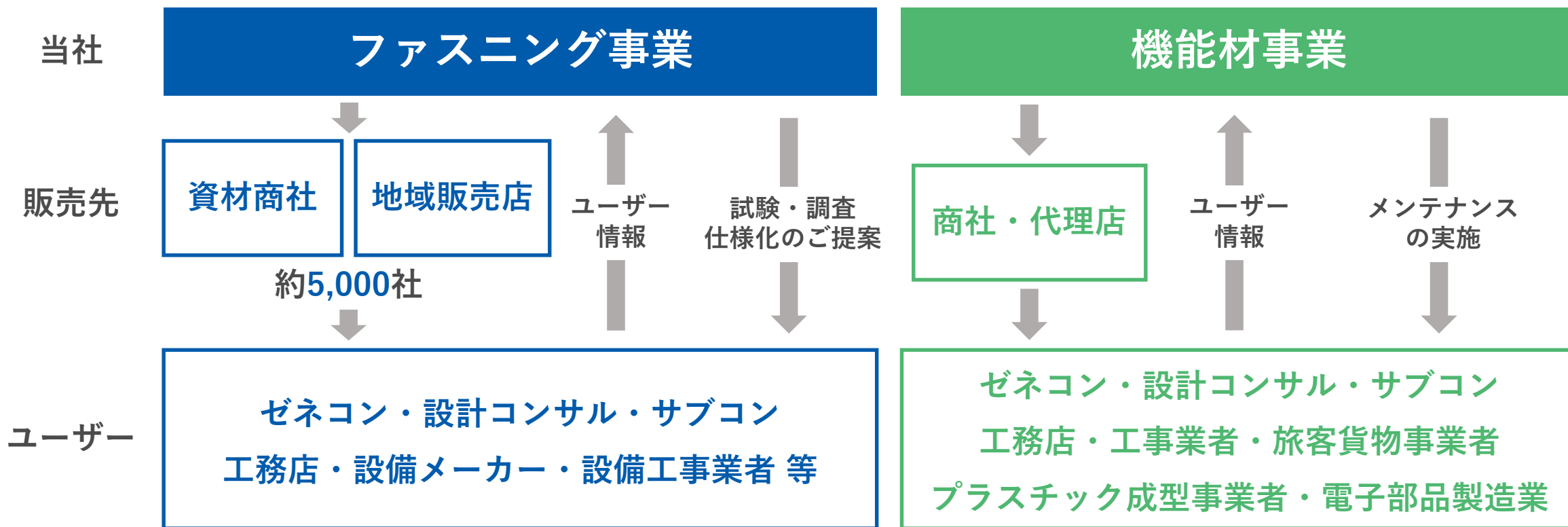
サンコーテクノ 約40% 他社（24社） 約60%



あと施工アンカー業界で
国内シェアNo.1

※JCAA 2022年「あと施工アンカー」生産実績調査結果報告書をもとに当社にて作成

当社の強み② ビジネスモデル



当社の強み③ グループネットワーク

日本国内：31拠点



全国の販売拠点では在庫も保有
全国営業・即納体制が可能に

海外：3拠点



当社の強み④ グループ内の連携

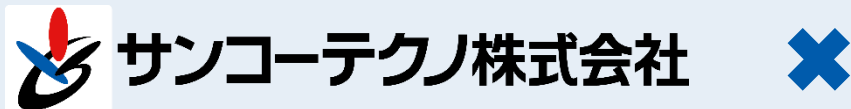
建設分野における独自の締結技術の追究 IKK / アイエスエム・インタナショナル / サンオー / 日本メカニック

海外事業の拡大 SANKO FASTEM(THAILAND)LTD. / 三幸商事顧問股份有限公司 / SANKO FASTEM(VIETNAM)LTD.

新規事業の強化・拡大 スイコー / 浦和電研 / WDS / 光洋

事業の多角化推進 成光産業 / 成光パック / イーオプティマイズ / 新光ナイロン

強みと強みを掛け合わせ新たな価値を創造



IKK
(電動油圧工具)

SFT・SFTW・SFV
(海外ネットワーク)

スイコー・浦和電研
(電子基板)

成光産業
(物流・包装機器)

▶ トータルファスニングシステムの構築

▶ アジア圏における建設資材のマーケティング

▶ アルコール検知器をはじめとした各種測定器のメンテナンスおよび電子機器の試作開発

▶ 共通顧客の開拓

当社の強み⑤ 研究・開発と製造体制

研究・開発

中・長期の開発テーマや他社との共同案件は「**技術研究所**」
短期的で迅速な対応が求められる案件は「**営業開発部**」



年間研究開発費 **約1.5億円**

(過去3年平均)



製造体制

国内には東西にそれぞれ工場を保有するほか
多数の**協力工場**とのパートナーシップをもち
独自の**ファブレス体制**を形成

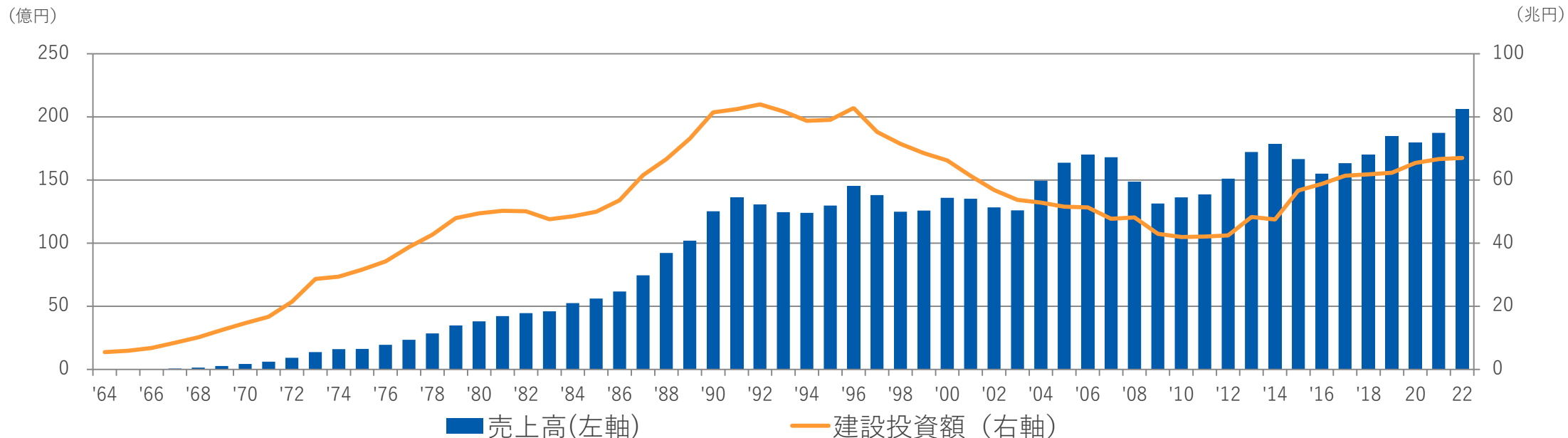
また、**海外（タイ・台湾）**にも**製造体制**を有しており
製品の製造技術や生産量に応じて生産拠点を決定している



当社成長の軌跡



- | | | |
|--|--------------------------------------|---|
| 1964年 三幸商事株式会社を設立 | 1998年 中央物流センターを開設 | 2015年 東証第二部へ市場変更 |
| 1965年 オールアンカー開発・実用新案登録 | 2002年 ものづくりテクニカルセンターを開設 | 2018年 技術研究所を創設 |
| 1966年 三幸工業株式会社を設立 | 2003年 (株) スイコーを子会社化 | 2019年 浦和電研(株)を子会社化 |
| 1988年 三幸商事顧問股份有限公司(台湾)を設立
SANKO FASTEM(THAILAND) LTD. を設立 | 2004年 (株) IKKを子会社化 | 成光産業(株)・成光パック(株)を子会社化 |
| 1993年 西部物流センターを開設 | 2005年 ジャスダック証券取引所に株式上場 | 2021年 日本メカニック(株)を子会社化 |
| 1996年 三幸商事・三幸工業の合併でサンコーテクノ誕生 | 2006年 アイエスエム・インタナショナル(株)を子会社化 | 2023年 (株) WDS・新光ナイロン(株)・
(株) 光洋を子会社化 |
| | 2011年 SANKO FASTEM(VIETNAM) LTD. を設立 | |



フェーズ1 成長への始動
国内拠点の拡充 (全国販売網の確立)

フェーズ2 転換期
製造と物流拠点の再構築
工事部門の設立

フェーズ3 持続的成長へ
産学連携の開発体制の構築
事業の多角化推進

- 本資料はサンコーテクノ株式会社の事業及び業界動向についてのサンコーテクノ株式会社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- 本資料における将来の展望に関する表明は、公表日現在において利用可能な情報に基づいてサンコーテクノ株式会社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。